

1 基本情報

予算中事業コード	15	予算小事業コード	5	事業名	高津区子ども・子育て支援事業		
事業所管課	こども支援室		担当者	津田	連絡先	044-861-3329	
関係局(局区連携事業は記載)							

2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	高津区は年間の出生数2,385人(平成22年)と多く、また子育て世代の転入も多く、将来人口の増加も予想されている状況である。その中で子育て不安や孤立した育児等を防ぐためにも、地域のあらゆる場面で親子で交流・学習し、地域のつながりをつくる場が必要とされている。
事業概要	①子育てグループ等の活動を支援し、新たな参加者がつながる機会を作る。②親子でスポーツを通じた活動で交流を深める。③子育て中の仲間づくりを支援する。④子ども・子育てに関する講演会等を開催する。⑤転入者に対し区内の子育て情報を提供し交流会を実施する。⑥地域の親子が保育園で一緒に遊び、昼食を食べる体験を通じ育児支援を図る。⑦公立保育園園庭開放を通じて地域の親子に安心して利用し交流できる場を提供する。⑧地域子育て支援センターを利用し、親子への遊びや情報を提供し仲間づくりを支援する。

3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	1,458,000	決算額	1,118,729	不用額	339,271
不用の理由	事務用品購入の不用、子育てグループ貸出用具購入の見積合せによる契約差金、保険料の精算差金				
事業目標	子育て中の親子等が交流・学習する機会や場をさまざまな形で実施することで、相互支援の関係を構築し、子どもが健やかに育ち、子育てしやすいまちづくりを目指す。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	①子育てグループ支援事業 ③地域子育て支援事業「あつまれキッズ」 ⑤転入者子育て交流会 ⑦公立保育園園庭開放		②親子スポーツ体験教室 ④子ども・子育て支援講座 ⑥公営保育園地域子育て支援事業「あそんでランチ」 ⑧地域子育て支援センター事業		
事業目標を達成する上での課題等	①グループ情報の提供方法 ③25年度事務局民営化移行による今後の運営と実施方法 ④講座内容、事前の広報方法 ⑤実施時期と回数 ⑦利用者を増やすための工夫 ⑧センター間での連携および事業の充実				
実績	①子育てグループの交流会を準備会も含め、3回実施した。②高津総合型スポーツクラブSELFと協力し、親子水泳教室等を10回実施した。③区内3か所において計4コース(年齢別)を、各月1回実施④市民向けの講演会を4回、支援者向けの事例研修会を3回実施した。⑤6月に2回、10月に1回実施した。⑥区内5園において、各5回実施した。⑦各保育園において(月)～(土)園庭開放を実施した。⑧各地域子育て支援センターにおいて、親子の交流の場や子育てについての相談・情報提供・講習会等を実施した。				
協働の視点	①区内の子育てグループ・自主保育グループと共に企画し、事業実施においても主体性を持った参加の工夫を行った。				
環境配慮への視点	各事業において、ゴミの持ち帰りを推奨した。 ②親子スポーツ体験教室において、太陽光発電によるグリーン電力を使用した。				
取組の成果	区役所・保育園・地域子育て支援センター等さまざまな場所で、子育て中の親子や子育て支援者が交流・学習する機会を持ち、区における子ども・子育て支援を推進した。				3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	②親子体験スポーツ体験教室の担当部署を、地域振興課地域スポーツ担当に移管し、父親の育児参加の視点に加え、地域のスポーツ関係団体との連携等も視野に入れた、イベント・教室(年3回程度)を実施する。

## 1 基本情報

予算中事業コード	15	予算小事業コード	10	事業名	高津区子ども・子育て地域等連携事業		
事業所管課	子ども支援室			担当者	津田	連絡先	044-861-3329
関係局(局区連携事業は記載)							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	高津区は年間の出生数2,385人(平成22年)と多く、また子育て世代の転入も多く、将来人口の増加も予想されている状況です。その中で子育て不安や孤立した育児等を防ぎ、健全な子どもの育ちを支援するために、地域社会全体で子育て支援を推進することが求められている。
事業概要	①区内の子ども・子育てにかかわる関係機関・団体等が情報交換や協議等を行い、ネットワークの推進を図る。 ②幼稚園・保育園・小学校が互いの保育・教育内容について理解を深め、発達連続性を踏まえた子どもの育ちを支援する。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	431,000	決算額	263,391	不用額	167,609
不用の理由	研修未実施(②幼・保・小連携推進事業)による講師謝礼の不用、事務用品購入の不用、印刷製本費契約差金				
事業目標	区における子ども・子育て支援を進めるために地域の関係機関・団体等が連携し、区内の子ども・子育て支援のネットワークの推進を図ることで、子育てしやすいまちづくりを目指す。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	①子ども・子育てネットワーク会議の実施 ②幼・保・小連携推進事業の実施				
事業目標を達成する上での課題等	①委員改選による新たなネットワークの構築と内容の充実 ②実習研修の実施時期、期間、方法の検討				
実績	①ネットワーク会議の本会議を4回、情報部会、研修・企画部会、子育てグループ支援部会を各部会ごとにそれぞれ実施した。 ②代表者連絡会を2回(5月・2月)、園長・校長連絡会を1回(7月)実施し、保育園・幼稚園実習研修(7月~9月)、実務担当者連絡会1回(10月)、小学校授業参観・懇談会(10月~12月)を開催した。				
協働の視点	区民、関係機関・団体等と協働で区内の子ども・子育て支援について検討し、課題解決に向け取り組んだ。				
環境配慮への視点	会議等においてはゴミの持ち帰りを推奨。資料等については再生紙を使用している。				
取組の成果	①ネットワーク会議は第3期の2年目を迎え各部会が中心となって事業が実施された。また②幼・保・小連携推進事業においてはそれまでの小学校教諭による保育園実習に加え、幼稚園実習も実施された。これらの経年の取組により、地域の子ども・子育て関係機関・団体等との連携が強化された。				達成度
					3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	①は、第4期を迎えるにあたり部会のあり方など検討し、改善のうえ継続する。②は、平成24年度も事業を継続して実施する。

## 1 基本情報

予算中事業コード	15	予算小事業コード	15	事業名	高津区子ども・子育て情報発信事業		
事業所管課	こども支援室			担当者	津田	連絡先	044-861-3329
関係局(局区連携事業は記載)							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	高津区は年間の出生数2,385人(平成22年)と多く、また子育て世代の転入も多く、将来人口の増加も予想されている状況です。その中で子育て不安や孤立した育児等を防ぎ、親子が安心して暮らせるように地域の子ども・子育て情報をさまざまな手段を通して広く提供することが求められている。
事業概要	①子育て中の区民のニーズに合った地域の子育て情報をガイドブック・ホームページ・携帯サイトを通して提供する。 ②より親子のニーズに合った情報を提供するために、子育て中の親と行政が協働で情報紙を発行する。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	3,147,000	決算額	2,296,156	不用額	850,844
不用の理由	委託料の不用(冊子改訂の契約差金、ホームページ更新料の不用)				
事業目標	子育て中の親の立場に立ったより身近な地域の子育て情報を発信することで、さまざまな子育て資源の活用を促し、子育てしやすいまちづくりを目指す。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	①子ども・子育て情報発信「ホッとこそだて・たかつ」の発行 ②子育て情報紙「あったかつうしん」の発行				
事業目標を達成する上での課題等	①川崎市ホームページリニューアルに伴う「ホッとこそだて・たかつ」ホームページ更新作業 ②紙面構成や情報内容の検討				
実績	①情報ガイド「ホッとこそだて・たかつ」を、子どもの生育過程に沿ったページ展開や全ページをカラーにし、より身近に使いやすく全面改訂し、6月に8,000部を発行した。これに伴い、利用者アンケートを実施し、ホームページも適宜情報を更新した。 ②子育て情報紙「あったかつうしん」を年間10回、各2,500部発行した。				
協働の視点	①改訂にあたっては子育て中の親や関係機関・団体等と協働し、利用者の立場に立った内容・構成等を検討した。 ②子育て中の親と協働で作成し、より利用者の視点に立った情報を提供した。				
環境配慮への視点	①②の作成に当たって、電子メール等を活用し紙資源の節約を行った。 また、編集会議等では節電に努め、飲み物等の持参、ゴミの持ち帰り等を推奨した。				
取組の成果	情報ガイド「ホッとこそだて・たかつ」は内容・構成等見直したことにより需要が高まり、1,000部増刷するに至った。また、事業全般として、紙媒体やホームページなど様々な形で情報提供することで、広く情報の発信・提供・共有ができた。				達成度
					3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	平成24年度については、全面改訂した「ホッとこそだて・たかつ」が好評なこと、また地域子育て支援センターが新規に1か所開設し、配布数が増えることから9,000部に増刷して発行する。

## 1 基本情報

予算中事業コード	15	予算小事業コード	20	事業名	高津区こども・子育てフェスタ事業		
事業所管課	生涯学習支援課			担当者	豊田	連絡先	044-814-7603
関係局(局区連携事業は記載)							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	地域での子育てを支援する団体・機関などの地域の子育て情報は、大きく広報されていないこともあり以外と入手しづらいことがあるので、それらを積極的に情報提供することにより、地域での子育てを支援する必要がある。 高津区は、子育て期に転入してくる区民が多く、地域での子育てのネットワークに入れず悩んでいる人も大勢いるため、地域の子育てネットワークに関する情報を提供し、子育ての不安をひとつでも取り除けるようにする必要がある。
事業概要	●高津区こども・子育てフェスタの実施 各種子育てグループ等の活動紹介展示・イベント等、地域の子育てグループや行政機関等の子育て情報提供を行うことにより、高津区における市民参加と行政との協働による子どもの育ちを地域で支えるネットワークづくりの一助とする。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	200,000	決算額	200,000	不用額	0
不用の理由					
事業目標	各種子育てグループ等の活動紹介展示・イベント等、地域の子育てグループや行政機関等の子育て情報提供を行うことにより、高津区における市民参加と行政との協働による子どもの育ちを地域で支えるネットワークづくりの一助とする。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	●高津区こども・子育てフェスタの実施 幅広く広報し、地域の子育てグループの参加数を増やすよう努める。 子育てグループ支援事業と連携し、参加する子育てグループに実行委員会への参加を促すほか、フェスタ当日の情報提供などへの参加を依頼する。				
事業目標を達成する上での課題等	地域の子育てグループの参加を促すと同時に、単なる参加から運営する側へ加わることのできるグループを発掘・勧誘すること。				
実績	●高津区こども・子育てフェスタの実施 平成23年11月12日(土)に高津市民館全館を使用して、子育て中の親と子どもを対象に、子育てグループ、子育てを支援する団体・機関などを紹介する展示、人形劇やコンサートなどの子ども向けの催し物、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の川口淳一郎教授の講演などを実施。 来場者延べ：1,500人、参加団体：69団体				
協働の視点	この事業の実施のために、高津区子ども子育てネットワーク委員や公募委員により組織された実行委員会と企画、運営面で協働して行った。				
環境配慮への視点	川崎市緑地協会による、環境への啓蒙展示のほか、グリーン電力を一部使用した。				
取組の成果	次のとおり、本事業の目標である、子育てに関する情報の提供と関係団体のネットワーク構築を図ることができた。 ・子ども・子育てネットワーク会議の子育てグループ交流会からも新たな参加団体もあり、参加団体は昨年65団体から69団体に増加した。 ・参加者も昨年の1,200人から増加した。特に、父親の参加が多かった。 ・実行委員の選出母体団体のや参加団体の連携も見られ、関係団体のネットワーク化を図ることができた。				達成度
					3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	参加団体の増加や参加者アンケートの結果から、地域の子育て情報の提供の重要性がはっきりしてきたので、情報収集から提供について見直し、魅力ある情報の提供を図っていく。開催日を学校行事と重なることの多かった11月第2土曜日から第3土曜日に変更し、参加しやすくする。事務局体制を見直し、こども支援室と生涯学習支援課が一緒になって取り組む。